

派遣留学生帰国報告書

* 復学後の情報を入力してください

記入日	2015.8.27		
所属学部	法経		
所属学科・専攻	総合政策	学年	4

1. 留学先について

留学先大学名	Universität Leipzig			
留学先所属学部等	経済学部			
留学期間	出発日 2014.8.5	入学日 2014.10.1	修了日 2015.7.23	帰国日 2015.8.23
住居	大学(紹介)の寮・アパート	民間アパート	その他()	
	通学時間	15-20分程度		On campus
	通学方法	自転車・トラム		
	居室スペース	個室 ()	人部屋	その他()
	共有スペース	完全個室	キッチン	トイレ
	リビング	その他()		
食事	自炊 20 %	学食 50 %	外食 30 %	その他 () * %で記入してください
保険	海外旅行保険(名称)			
	大学指定の保険(名称)			強制加入
	その他			
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)			
	成田 ⇄ アブダビ⇄フランクフルト ⇄ Leipzig(電車)			

2. 留学にかかった費用について

総費用	800000	円	* おおよそでかまいません。		
出処					
自費	貯金	100000	円	アルバイト	円
				その他	円
援助	両親		円	家族・親戚	円
				その他	円
奨学金	JASSO		円	その他名称()	円
その他	千葉大学助成金		円	その他()	円

2-1. 財政管理の方法

渡航時	現金	80000	円	その他()	円
留学中	海外送金	キャッシング		その他()	

2-2. 各費用の支払い方法 ex.)全額、クレジットカードで。

大学に払った費用	現金
住居にかかった費用	ドイツの口座から
その他	

2-3. 内訳

* 外貨で払ったものについては日本円に換算したおおよその金額も記入してください

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	€	1000	135000	円
海外旅行保険	€	300	40500	円
OSSMA	€	100	13500	円
査証・在留許可証	€	50	6750	円
住居	€	210×11=2310	311850	円
食費	€	100×12=1200	162000	円
通学に要する交通費	€	0	0	円
教科書、教材費	€	100	13500	円
その他大学に支払った経費	€	300	40500	円
光熱費	€	0	0	円
その他 ()				円
その他 ()				円
その他 ()				円

3. 学業面

履修科目名 * 全て。足りない場合には別紙に記入してください。	種類 ^{ex.} 正規、聴講	単位数	単位互換認定 申請の有無	
1 経済理論	正規	5	有	無
2 マクロ経済学	聴講	5	有	無
3 計量経済学	正規	5	有	無
4 ロシア語	正規	2	有	無
5 移民労働について	聴講	5	有	無
6			有	無
7			有	無
8			有	無
9			有	無
10			有	無
11			有	無
12			有	無
13			有	無
14			有	無
15			有	無
16			有	無
17			有	無
18			有	無
19			有	無
20			有	無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

* 登録時期や千葉大学と異なる方法で登録する場合など具体的に説明してください。

正規学生はネット上で登録可能。交換留学生は教授に直接その旨を伝えて、記入用紙に必要事項を明記し、教授に提出して登録完了。

3-2. 授業内容、方法に関して

経済系の授業は講義と問題演習がセットで開講されている。社会学の授業も講義とゼミがセットのものが多かった。内容は日本と同様の名前を冠した授業でも、ドイツでの内容の方が高度だった。

3-3. 語学力について

初めは授業内容など、ほとんど理解できなかった。日常会話でもわからないことだらけの状態、非常に苦労した。もう少し日本で努力すべきだったことが反省点。

3-4. 図書館など学内施設について

図書館は完全にLeipzig大学の方が優れていた。24時間営業で、授業で扱われる書籍もかなりの数がそろっていた。なにより、使い終わった本をそのままにしておいても、注意されないところがよい。食堂の料理の味は普通だが、手ごろな価格でおなか一杯食べられるのがよい。7時半ごろまで営業しているので、授業終わりに晩御飯でも食べれる。カフェもあるので、コーヒーが気軽に飲めた。

3-5. その他

4. 生活面 *気づいたこと、心掛けたことなどをご記入ください。

4-1. 住居について

家賃・光熱費込みで日本円で月々約30000円だったので、千葉で暮らしているよりもはるかに安く上がった。生活に必要な家具・家電は最初からあるので、それらを新しく購入する必要もなかった。同室の隣人とはキッチンやバス・トイレなどを共有していたので、そこで使われるものも共有して使用していた。部屋は至って清潔で、日本での下宿よりも広かった。

4-2. 食生活について

最初は自宅で鍋でコメを炊いていたが、特にコメを食べなければならないわけではなかったなので、次第に外食が多くなった。外食と言っても、上述のように学生食堂で昼食と夕食を食べていたので、そこまで高くはつかなかったはずだ。それ以外ではケバブやフォーをよく好んで食していた。

4-3. インターネット環境、携帯電話について

大学ではWifiを使用し、家ではWifiルーターを使用していた。家のネットは無料だった。携帯はSimフリーの携帯にドイツのSimカードを差し込んで使用。プリペイド式になっており、スーパーや売店でお金を払い、もらった番号をネット上で打ち込むと自分の携帯の口座に振り込まれ、払った金額の分だけ通話やネットが利用可能。月々2000円程度だった。

4-4. 服装について

ドイツ人学生や留学生も含め、服装には無頓着な人が多かった(ように思われた)ので、自分もシンプルな服装になっていった。服を新規に購入するが面倒だったのと、サイズ感が合わない服が多かったのも、現地ではほとんど服を買わなかった。

4-5. 健康管理について

冬場は風邪をひきやすかった。風邪茶なるものを飲んだりして、しのいでいた。野菜不足になることが多かったので、野菜を多く摂取するように心がけた。また、冬場は鬱とは言わないまでも、気持ちが落ち込むことが多かった。

4-6. 保険、OSSMAの利用 *利用実績等をご記入ください

OSSMAは一度も利用していないので詳細は不明。保険は大学が勧めてきたものはべらぼうに高かったので、自分で安い保険を探して契約した。特に利用したことはない。

4-7. 課外活動について

課外活動に該当するようなことは行っていない。

4-8. 学外のコミュニティとの交流について

特になし。

4-9. 日本から持参してよかったもの

持ってきてよかったものは服ぐらいしか思いつかない。逆に持ってくるべき、またはあった方がストレスが少なかったはずなものとして、サランラップと書類を入れておくファイルが挙げられる。ドイツのラップは恐ろしく切れない(ラップの問題か、金属歯の問題か不明だが)のと、皿などにあまり密着してくれないので、すぐにめくれてくる。ファイルは何枚か綴られたクリアファイルのことで、これも文具屋では見かけなかった。そのため、いちいち穴あけパンチを使っただけのファイリングが必要で面倒だった。

4-10. 日本から持参したが不要だったもの

最低限の生活を営むのに必要なものはドイツも日本もあまり変わらないので、必需品に関しては持っていかななくても問題はない。

4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

日本では「他人に迷惑をかけてはいけない」ことになっているが、ドイツ(もとより、多くの国ではそうなのではないかと推測する)では「人には迷惑をかけて当たり前」という精神が強いと感じた。これがあるため、他人から迷惑をかけられることに寛容であると思う。故に、例えば公共の乗り物でも、多少のことでは注意されない。

4-12. 余暇の過ごし方

旅行 * 複数回出かけた方はすべての日程、行き先、費用等をご記入ください。

ex) 【イギリス・ロンドン&フランス・パリ(観光)】〇〇年〇月(5日間)、約5万円

オランダ・ベルギー/14年12月、約4万 ポルトガル・スペイン/15年3月、約5万 チェコ/15年5月、約2万
イギリス/15年6月、約3万 ロシア/15年8月約7万

その他 * 気分転換やストレス発散法など。

自転車に乗る・引きこもる・コーヒーを飲む・徹底的に悩む

5. 報告

5-2. 留学先大学について(150~200文字)

ドイツでは二番目に長い歴史を持つ大学とされている。総合大学なので、多種多様な学生が学んでいる。留学生の受け入れも盛んで、ヨーロッパはもちろん、全世界からありとあらゆる国の学生が集まっている。学部ごとにキャンパスがバラバラなので、他学部の様子はわからないが、経済学部のあるメインキャンパスの設備は良く、学習に集中しやすい環境にあると言える。また、メインキャンパスは街の中心にあり、アクセスは抜群で、すぐ近くには書店・スーパーに加えて文化施設などがあるので、不便はほとんどない。

5-3. 留学中の様子(450~500文字)

留学序盤はとにかくドイツ語ができるようになることでいっぱいだった。リスニングや単語、ディクテーション、ドイツ人とのタンデムなど、やれることはすべてやっていた。しかし、思うようにドイツ語力が向上する兆しも見えなかったのと、冬場のドイツの気候も相まってかなり落ち込んで悩むことが多かった。ドイツ語がそんな状況だったので、日本から経済学の本を取り寄せて、専門の勉強には日本語のものを用いた。春が近づいてくると少しばかり気分がよくなってきた。冬場よりは人間的で文化的な生活が送れるようになっていたと思う。ドイツでは折しも、難民の問題が表面化しており、Leipzigでも難民受け入れ反対派と賛成派でのデモが春ごろから活発化していた。そういったことをふまえて、今まで自分のことで精一杯だったが、ドイツ・ヨーロッパの社会情勢そして、日本の状況に目を向けて考えるようになった。春が過ぎると自分のドイツ語にも多少なりとも自信が持ててきた。専門の勉強にも身が入るようになり、効率は向上していたと思う。ドイツ語の上達や専門の勉強もさることながら、さまざまな人との関わりもあり、物事を考えるチャンスを持てたこと、そして徹底的に思考できたことが自分の中での収穫だった。

5-4. 留学希望者へのアドバイス(300~400文字)

とにかくドイツ語を日本にいたるところから徹底的にやっておくべき。それがないと本当に苦労する。ただ、日本で学ぶドイツ語と実際に現地で話されているドイツ語に乖離があるように思われたので、最初の聞き取れないショックは覚悟(海外生活が初めての人なら特に)しておいたほうがいい。上述のように、冬場はとにかく気が落ち込みやすい。なにか気分転換の方法を普段からもっているほうがいいし、運動する機会を設けたほうがいい。あと、これは完全に自分の考えでしかないし、その人の過ごし方にもよると思うが、同じ留学でもドイツ語圏と英語圏では全く意味が違ったものになってくると思う。もし英語圏にあるような華やかさを求めるというなら、ドイツをお勧めはしない。しかし、欧米の大学全般に言えることだと思うが、勉強に集中できる環境は日本の大学より整っていると思うので、勉学においてはドイツ語圏であろうと英語圏であろうと遜色はないはずである。

5-5. 留学を終えて * 派遣留学プログラムについて、今後の目標、進路、自信がついた部分、不安に思うことなどなんでも。

あっという間だったとも、長かったとも思わなかった。留学中はいろいろあったので、思い返すのが大変だが、やはり物事を考える機会と時間をもつことができたのが大きい。自分の進路についても、もう迷うこともなく、この留学を通して決めることができた。

お疲れ様でした